



## 予選2位からのスタートに膨らむ期待 決勝レースは7位で2戦連続の入賞

AUTOBACS SUPER GT 2022 第3戦鈴鹿、5月29日(日)、初夏を思わせるような熱い日差しの中、決勝レースが行われました。

K-tunes Racingは前日の公式予選、4位のタイムを記録したものの、上位のマシン2台のタイムが取り消しとなり、2位へと繰り上がりました。こうした流れを逃がさないことは勝者となるために必要なことです。今回サーキットへと持ち込んだタイヤの中から、予選での不利を承知で、決勝のペースで有利なハードタイヤを予選で使用しました。にも関わらず予選2位を得たことは、決勝レースの上位入賞の可能性を高めたことは間違いありません。

決勝レース、スタートドライバーは新田守男選手が担当。スタートでは優れた加速力を持つGT-Rを抑え、ポジションをキープすることに成功。トップとの差も拡がることなく、2位でレースが進んでいきました。やはりペースはライバルたちと同等のようでした。

しかしセーフティカーが導入され低速走行となったことでタイヤが冷えてしまうと、再スタート後にグリップが完全に回復せず、ペースが苦しくなってしまいました。何とか後方のマシンを抑えていた新田守男選手ですが、ドライバー交代直前、18周目に3位へとポジションを落としました。

19周目にバトンを受けた高木真一選手。ピット作業にもミスはなく、コースへと戻ったのは15位の位置でした。大きく順位を落としてしまったのは、給油時間がライバルよりも長く必要だったからです。

それでも高木真一選手は着実にポジションを回復。9位となっていたファイナルラップ、コース後半で一気に2台をオーバーテイクすると、7位でチェッカーフラッグを受けました。攻めの走りが、2戦連続入賞という結果につながったのです。









Team Director **影山正彦** チーム監督

新田選手がフロントローからスタートして、要所要所を抑えて高木選手へと、ほぼ完璧なピット作業で交代しました。しかし必要な給油時間が長く、15位まで順位を落としてしまいました。高木選手は最終周に2台をオーバーテイクするなど、素晴らしい走りで、2戦連続入賞できたことは大きかったと思います。



新田守男 選手

55℃を超えるような路面温度になって不安もあったんですが、ダンロップタイヤはいいパフォーマンスでした。 FCY、セーフティカーと、低速での走行になってタイヤが一度冷えてしまうと、ライバルに対してペースが苦しくなってしまいました。それでも高温下でのデータも取れたし、ポイントも2戦連続でゲットできたので、いいレースだったと思います。



Driver 高木真一 選手

3番手で交代したんですが、まさか15番手まで順位を落としているとは思いませんでした。タイヤのことを意識しながら、ペースをコントロールしていました。トラブルで後退していったマシンもあり、入賞圏内まで戻すことができました。最後は混雑した6位争いの集団の中で2台を抜いて、7位にまで上がることができました。暑い中での走行データを含めて、次につながるレースだと思います。

## **2022 AUTOBACS SUPER GT Round.3 鈴鹿** 05/29 決勝レース 鈴鹿サーキット 天候:晴れ 路面:ドライ

Pos.	No.	Machine	Driver	Laps	Time / Gap	Best Lap	Tire	SW
1	7	Studie BMW M4	荒 聖治	- 49	1:57'34.344	2'01.313	MI	0
		BMW M4 GT3	近藤 翼					
2	5	マッハ車検 エアバスター MC86 マッハ号	富林勇佑	- 49	9.612	2'01.761	ΥH	0
		TOYOTA 86 MC	平木玲次					
3	56	リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R	藤波清斗	- 49	9.883	2'01.283	ΥH	66
		NISSAN GT-R NISMO GT3	J.P.オリベイラ					
4	52	埼玉トヨペットGB GR Supra GT	吉田広樹	- 49	15.104	2'01.248	BS	3
		TOYOTA GR Supra	川合孝汰					
5	88	Weibo Primez ランボルギーニ GT3	小暮卓史	- 49	22.516	2'01.534	ΥH	9
		Lamborghini HURACAN GT3	元嶋佑弥					
7	96	K-tunes RC F GT3	新田守男	- 48	1 Lap	2'01.349	DL	8
		LEXUS RC F GT3	高木真一					

ファステストラップ 2'00.677 #87 坂口夏月